

第43回日本分子腫瘍マーカー研究会 一般演題一覧

演題番号	演題登録番号	セッション名	セッション時間	演題名
1-1	2011	一般演題 1	9時10分～10時00分	尿中Exosome抽出に際する尿の至適保存方法の検討
1-2	2018	一般演題 1	9時10分～10時00分	血中細胞外小胞内変異タンパク質による新規腎癌リキッドバイオプシー技術開発
1-3	2000	一般演題 1	9時10分～10時00分	メチル化パネルアッセイによる多がん種同時検査システムの開発
1-4	2004	一般演題 1	9時10分～10時00分	がん特異的に発現する新規膜タンパク質を用いた血中循環がん細胞（CTC）の検出
1-5	2007	一般演題 1	9時10分～10時00分	Apolipoprotein-A2 isoformを利用した膵がん血液バイオマーカーの臨床開発
2-1	2014	一般演題 2	10時00分～11時00分	マルチオミクス解析を用いたTP53変異型膵がんにおける治療標的分子の探索
2-2	2022	一般演題 2	10時00分～11時00分	食道扁平上皮癌におけるTIF1 γ 発現の意義
2-3	2005	一般演題 2	10時00分～11時00分	食道扁平上皮癌微小環境において癌関連線維芽細胞由来のペリオスチンが癌進展を促進する
2-4	2012	一般演題 2	10時00分～11時00分	リン酸化プロテオームと計算的アプローチの統合による胃癌治療薬apatinibのバイオマーカー探索
2-5	2024	一般演題 2	10時00分～11時00分	大腸癌におけるepigenetic master regulator BRD3発現の腫瘍進展における生物学的意義と、治療選択のバイオマーカーとしての可能性
2-6	2010	一般演題 2	10時00分～11時00分	結腸直腸癌における口腔細菌叢発現の臨床的意義
3-1	2009	一般演題 3	11時00分～11時50分	結腸直腸癌におけるpks陽性Escherichia coli発現は有用な予後予測マーカーである
3-2	2013	一般演題 3	11時00分～11時50分	プロハプトグロビンは大腸癌の予後予測マーカーとなる
3-3	2016	一般演題 3	11時00分～11時50分	Helicobacter pylori除菌後胃粘膜の遺伝子発現パターンと胃癌再発の関連の検討
3-4	2015	一般演題 3	11時00分～11時50分	がん関連線維芽細胞由来の顆粒球コロニー刺激因子GCSFは、乳がんの増殖と骨転移に寄与する
3-5	2006	一般演題 3	11時00分～11時50分	予後予測バイオマーカーであるアクチニン-4とそのスプライスバリエーションの機能解析
4-1	2002	一般演題 4	14時30分～15時10分	新規コアフコシル化IgG抗体による肺癌の診断法
4-2	2020	一般演題 4	14時30分～15時10分	抗中皮腫抗体SKM9-2の糖ペプチドエピトープ認識の解析
4-3	2021	一般演題 4	14時30分～15時10分	腫瘍マーカータンパク質ファミリー、Ly6 super familyの一つであるLy6Hに対するモノクローナル抗体の作製
4-4	2017	一般演題 4	14時30分～15時10分	がん精巣抗原に対する腫瘍関連抗体を用いた固形がん血清学的診断法の開発
5-1	2019	一般演題 5	15時10分～16時00分	大腸癌におけるKRAS Heterogeneity
5-2	2003	一般演題 5	15時10分～16時00分	In vitro共培養環境下における細胞外小胞の追跡系の構築
5-3	2001	一般演題 5	15時10分～16時00分	ラットの肝化学発がんイニシエーションの分子細胞機構
5-4	2025	一般演題 5	15時10分～16時00分	OTS-アッセイのための病理学的検討およびその応用
5-5	2008	一般演題 5	15時10分～16時00分	父親マウスの低タンパク食が次世代個体のがん関連遺伝子発現に与える影響